

令和3年度 校内研修のまとめ

研修係

1 研究主題

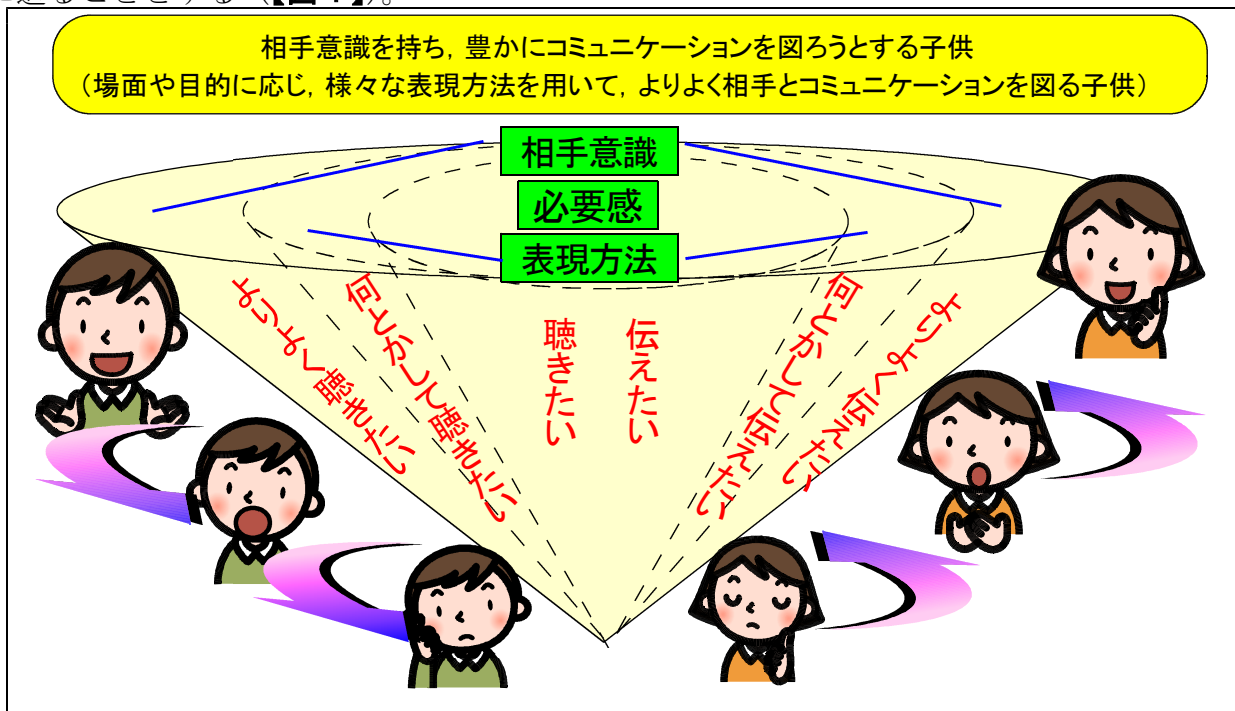
相手意識を持ち、豊かにコミュニケーションを図ろうとする子供の育成
～小学校ならではの外国語教育を目指して～

2 研究の目的

昨年度からの新学習指導要領全面実施に伴い、外国語教育は大きな転換期を迎えた。中学年での外国語活動や高学年での文字指導など、未知の分野もあり、教師の不安感や負担感も大きい。しかし、これまでの学習指導要領における外国語活動は、小学校の学級担任の強みである、豊かな子供理解に基づき、各教科等の学びや行事等と関連付けながら、子供のコミュニケーションへの興味・関心を引く教材・活動の工夫を行うことや、学級経営や各教科等を通して、失敗を恐れない学習集団を形成することが、大きな支えとなってきた。こうした子供理解や学習集団づくりは不易なものであり、これらを基盤に据え、小学校でしかできない外国語教育を目指していくことが大切であるとする。このことを踏まえ、本研究主題を設定し、協働体制で研究を進めることとする。

3 目指す子供像

コミュニケーションへの積極性は、相手との間に関係性を見出し、「必要感」を持つことによって活性化されると考える。そこで、本校では、「必要感」を「思わず聴きたくなる、伝えたい気持ち」と捉え、これを高めることがコミュニケーションへの積極性の礎になると考えた。また、コミュニケーションの幅を広げるには、遊び感覚豊かな活動を通して、コミュニケーションを継続させるための言語的・非言語的手段などの表現方法を身に付け、それを発揮しながらコミュニケーションを図ることが重要である。さらに、互いにとってやりとりが心地よいものになるためには、「相手意識」を持つことが必要である。そこで、本校では相手意識を「場面や目的に応じ、言語的手段や非言語的手段を用いて、よりよく相手とコミュニケーションを図ろうとする態度」と捉え、必要感、表現方法、相手意識に視点を当てながら指導していくことにより、目指す子供像に迫ることとする（【図1】）。



【図1 目指す子供像】

4 研究の仮説

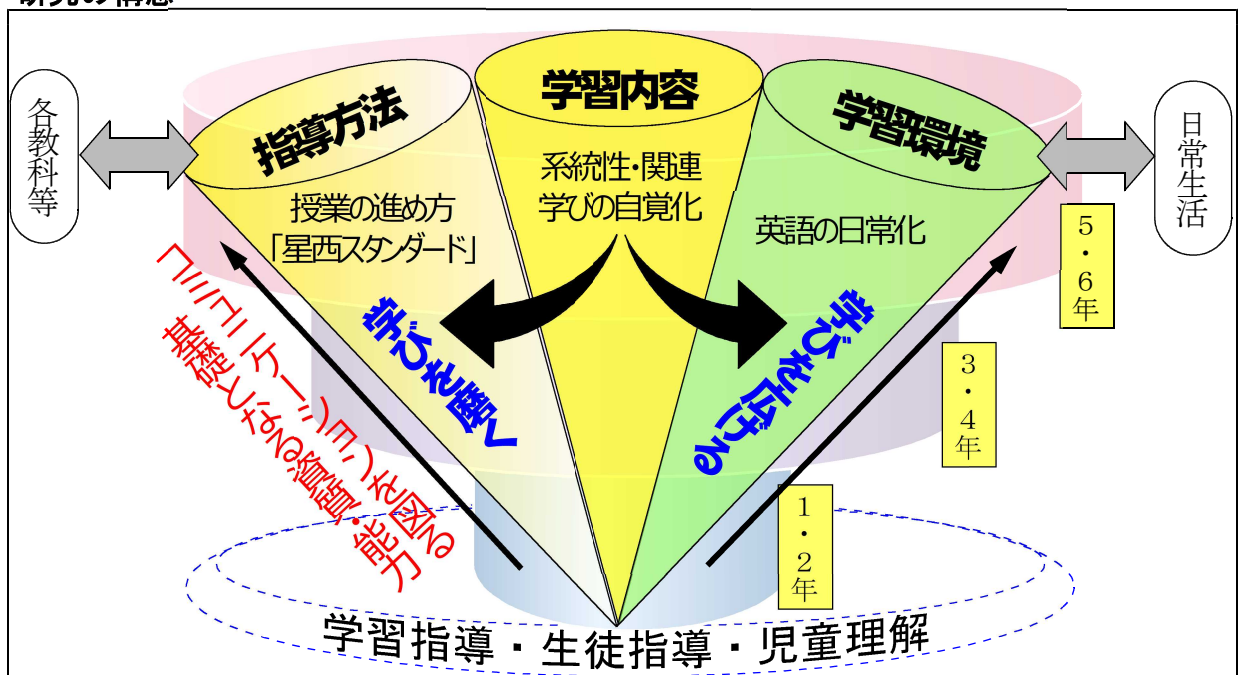
コミュニケーションを図る必要感を持たせ、コミュニケーションのよさに気付かせる評価の工夫を行えば、相手意識を持ち、豊かにコミュニケーションを図ろうとする子供を育成することができるのではないか。

- (1) 「コミュニケーションを図る必要感を持たせる」とは
コミュニケーションを図らないと解決できない課題等を設定し、子供に「聴きたい」「伝えたい」という思いを持たせることができる言語活動を仕組むことである。
- (2) 「コミュニケーションのよさに気付く」とは
他者のコミュニケーションを図る様子を見ること（中間評価）で、様々な表現方法や相手意識を持つことの大切さに気づき、自分のコミュニケーションにも取り入れ、よりよくコミュニケーションを図ることができるようになることである。
- (3) 「相手意識を持ち、豊かにコミュニケーションを図ろうとする」とは
場面や目的に応じ、様々な表現方法を用いて、よりよく相手とコミュニケーションを図ろうとすることである。

5 研究の内容

- (1) 学習内容部
 - 系統性・関連の分析
 - 学びの自覚化を図る振り返りカードの作成（学習到達目標を生かして）
 - 授業研究会の司会・記録
 - 研究授業記録の管理，教師・児童の行動観察記録及び報告
- (2) 指導方法部
 - 外国語（活動）授業の進め方「星西 English Standard (HES)」の作成
 - ・ 必要感の持たせ方
 - ・ 表現方法の広げ方
 - ・ 相手意識の持たせ方
 - ・ 中間評価の仕方
- (3) 学習環境
 - 学習環境の整備（階段・学年掲示板・教室など）
 - 絵カード作成（1～4年） ※ 5・6年はPictureカードあり

6 研究の構想



7 研究授業の記録

(1) 第6学年

ア 日時 令和3年6月17日第5校時

イ 単元名 「Let's go to Italy!」(NEW HORIZON Elementary 6 Unit 3)

ウ 授業者 保先生・末次先生・徳田

エ 本時案

5 本時(6/8)





(1) 目標

自分のことを伝え、相手のことをよく知るために、おすすめの国とその理由について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを話すことができる。

(2) 本時の展開にあたって

本単元で目指す、相手意識を持ったコミュニケーションを図る子供像は、「強弱」「話す速さ」「ジェスチャー」「表情・視線」などを工夫して発表しようとする子供である。そこで、本時では、相手意識に対する課題意識を高めるために、デモンストレーションで複数の「おすすめの国を紹介する動画」を提示し、「どの代理店の紹介を聞いて行きたくなったか」と問い、発表の仕方について比較させることで、よりよい発表の仕方について考えさせたい。次に、コミュニケーションの質的向上を図るために、学習形態の工夫と中間評価の実施を行う。まず、学習形態の工夫についてであるが、前時では一人でおすすめの国を紹介していたのに対し、本時では、グループで一つの国を決め、おすすめする活動に取り組む。そして、グループ同士でのリハーサルを見合った後、アドバイスタイムを設け、よりよい発表にするためにはどうすればよいかを助言し合わせる。最後に、「Can-do」形式と自由記述形式の振り返りを行い、学びの自覚化を図らせ、次時への意欲を高めたい。

(3) 実際

| 過程 | 主な学習活動 | 思考の流れ | 時間 | 教師の具体的な働きかけ(◎評価) |
|-----|------------|--|----|--|
| 出会う | 1 挨拶 | <p>同じ話なのに、なぜ受け取り方が違ってくるのかな。</p>  <p>どうすれば説得力のある、おすすめの国紹介になるのだろう。</p> | 5 | <p>○ 既習表現を使い、日付、天気などについてやり取りをする。</p> <p>○ 同じマニュスクリプトを使った発表であるが、一方は相手意識を持った発表、一方はそうでない発表にして事前に映像を撮影しておく。そして、「どちらのおすすめの方に行きたくなったか」と比較させ、なぜ説得力のある発表だったのか、説得力のある発表にするためにはどうすればよいのかという課題意識を高め、学習への見通しを持たせる。</p> |
| | 2 映像視聴 | | | |
| | 3 めあて | | | |
| 慣れる | 4 表現練習 | <p>~ is a nice country. You can see the ~. You can eat ~. It's ~.</p>  <p>言えるようになってきたぞ。</p> | 3 | <p>○ 自信を持ってコミュニケーション活動に取り組ませるために、リズムチャンツを通して基本表現に慣れ親しませる。また、文字と絵を工夫して提示し、語順への気付きを持たせる。</p> |
| | 5 グループ練習① | | | |
| 楽しむ | 6 アドバイスタイム | <p>どんな食べ物や建物を紹介しようかな。</p>  <p>強弱を付けたいと思うよ。</p> | 27 | <p>○ グループで前時に決めておいたおすすめ国について紹介する内容を考え、練習させる。また、総合的な学習の時間に作成したポスターも活用しながら、よりよい発表の仕方について考えさせる。</p> <p>○ グループ同士でそれぞれの発表を見合い、よりよい発表にするためにどうすればよいかという視点で助言させる。また、それぞれのグループでどのようなアドバイスが合ったのかを共有し、可視化することで、コミュニケーションの質的向上につなげる。</p> <p>◎ 自分のことを伝え、相手のことをよく知るために、行ってみたい国や地域と、その理由について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを話している。【思(話・発)】</p> <p>◎ [同上] 話そうとしている。【主(話・発)】</p> |
| | 7 グループ練習② | | | |
| | 8 振り返り | | | |
| 広げる | 9 挨拶 | <p>次もがんばろう。</p>  | 5 | <p>○ 感想を記入したり、自己評価をしたりすることで、互いの成長に気付かせたり、学びの自覚化を図ったりする</p> <p>○ 次時の学習について知らせる。</p> |

オ 授業研究の記録

| | 成果と課題 | 課題への改善策 |
|-----|---|---|
| 導入 | <p>本時のめあて</p> <p>○ 人を引き付けるための工夫は？という発問</p> <p>動画</p> <p>○ 2つの動画を対比することで問題意識が向上した。</p> <p>▲ 動画を扱う時間が長い。</p> <p>▲ 出演者の特徴など注意が逸れてしまう児童がいた。</p> | <ul style="list-style-type: none"> めあての文言に「その工夫を生かして話そう」という活動の方向性が示せればさらに良かった。 動画ではなく、AEAの活用によって内容の対比をさせたら良かった。 |
| 展開 | <p>グループ内における協働的学び</p> <p>○ グループでの話し合い・反省・改善が積極的になされ、児童同士の気づきが高まった。</p> <p>▲ 上記内容が消極的なグループがあった。</p> <p>▲ 相互評価後の練習を十分にできなかった。</p> <p>グループ間における中間（相互）評価</p> <p>○ 楽しく工夫しながら発表し合え、相互評価で肯定的な感想が出た。</p> <p>○ 視点をもってグループ内練習（改善）ができた。</p> <p>▲ ジェスチャーが楽しむだけの工夫になっており、伝えるための工夫として捉えられていないグループがあった。</p> <p>▲ 教室内の音、見る角度で相互評価しにくかったところがあった。</p> | <ul style="list-style-type: none"> グループに進行役やアドバイスができる人を入れるといった工夫をすれば良かった。 話し合い・練習・改善（相互評価後）のための時間確保。 評価のための視点を可視化し、確認しておけばよかった。 学級の教室や渡り廊下、タブレット活用 AEAの先生に発表してアドバイスをもらい、改善につなげる。 |
| 終末 | <p>Can-Doリスト</p> <p>○ 段階評価・記述により、自己の高まりが分かる。</p> <p>○ 自己評価をよく書き、発表意欲が高かった。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 段階評価のさらなる活用 |
| その他 | <p>○ 板書が見やすく素晴らしい。</p> <p>▲ 自由記述をなかなか書けない児童もいた。</p> <p>▲ 時間配分</p> | <ul style="list-style-type: none"> チャンツ、動画視聴等→短く評価を受けての練習 →長く |

(2) 第3学年

ア 日時 令和3年10月28日第5校時

イ 単元名 「What do you like?」(Let's Try! 1 Unit 5)

ウ 授業者 下温湯先生・坂本先生

エ 本時案

5 本時 (2/4)

(1) 目標

好きな果物を伝え合う表現に慣れ親しみ、相手に応じてより良く、尋ねたり答えたりすることができる。

(2) 本時の展開にあたって

本単元で目指す、相手意識を持ったコミュニケーションを図る子供像は、「話す速さ」「ジェスチャー」「身振り」「表情・視線」などを意識して、相手に伝わりやすい言い方をしようとする子供である。








そこで、本時では、HRTとAEAが相手意識を持たない尋ね合いをして、足りないものは何か、尋ね合うときはどのようにすればよいかという課題意識を高め、学習への見通しを持たせる。

まず、果物の単語に慣れ親しませるために、チャンツやミッシングゲームを行う。チャンツやミッシングゲームの際には、「I like～」という答え方も子供たちと確認する。そして、「What fruit do you like?」という好きなものを尋ねる表現にも慣れ親しませるためにステレオゲームを行う。ステレオゲームはまず、6人班で行う。その後、学級の中から4人ほど選び、前でやってもらう。その中で、複数人で同じ表現を話ししながら、相手に尋ねる際の言い方の工夫も同時に意識させる。

次に、好きな果物を尋ね合う活動を行う。移動を制限するために、1～3班と4～6班に分かれてその中から、自分と同じ果物が好きだという人を尋ね合いながら見つける。その際、相手を大切にしたいコミュニケーションができていのか自覚化させるために、やり取りが上手な子供たちを紹介し、どこが良いところなのかを確認しながら、中間評価を行う。

最後に、「CAN-DO」形式と自由記述形式の振り返りを行い、学びの自覚化を図り、次時への意欲を高めた。

(3) 実際

| 過程 | 主な活動 | 思考の流れ | 時間 | 教師の具体的な働きかけ | チェック項目 | | | | | |
|-----|--|--|----------------------------------|--|---|--|---|--|--|---|
| 出会う | 1 挨拶 | どうすればうまく尋ね合うことができるかな。 | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 既習表現を使い、日付、天候などについてやりとりをする。 ○ 授業への意欲を高めるために、歌に親しませる。 ○ HRTとAEAが相手意識を持たない尋ね合いをして、足りないものは何か、尋ね合うときはどのようにすればよいかという課題意識を高め、学習への見通しを持たせる。 |  興味関心 | | | | | |
| | 2 Let's sing 「Do you like Pickle Pudding?」 【Youtube】(字幕あり) | | | | | | | | | |
| | 3 スモールトーク | | | | | | | | | |
| | 4 めあて 好きな果物をたずね合おう。 | くだものの英語の発音練習だ。 | | | |  見通し | | | | |
| 慣れる | 5 チャンツ 「What fruit do you like?」 「I like apple」 | | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習につなげるために、チャンツで、果物の単語を確認した後、「I like ～」の言い方に慣れ親しませる。 |  スモールステップ | | | | | |
| | 6 ミッシングゲーム なくなったカードは何か正解した後、全員で「I like ～」で発音する。 の言い方で、答える。 | まだまだ、うまく言えないけど、チャレンジだ。 | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 黒板に単語を貼りながら、発音の確認をする。 ○ 尋ねる際にやりとりを楽しくするために必要な表現方法を確認する。 ○ 自信を持ってコミュニケーション活動に取り組みさせるために、ゲーム活動を通して、基本表現に慣れ親しませる。 | | | | | | |
| | 楽しむ | 7 ステレオゲーム (1) 児童を6人×6班にする。 (2) 班ごとに行う。さらに班を3人ずつの2グループに分け、片方の二人が、「What fruit do you like?」と聞く。 (3) 残りの3人が一斉に好きな果物を言う。 「I like ～。」 (4) 聞き手は、3人で相談しあい、「Oh, you like～」で返す。 (5) 役割をかえ、同じことを繰り返す。 (6) 4人ほど前でやってもらう。 | 聞いたり話したりができるようになってきた。 | 9 | | | <ul style="list-style-type: none"> ○ どの果物を言うかなど、作戦タイムを設定する。 ○ 好きな果物を尋ねたり答えたりに慣れ親しむことができたか。 【話(や)】 |  練り上げ  課題解決 | | |
| | | 8 インタビューゲーム ・1～3班と4～6班ごとに尋ね合い、自分が好きな果物と同じ人を3人以上さがす。 (話す速さ ・表情や視線 ・声の大きさ ・ジェスチャー ・身振り ・挨拶 などを意識しているか。) | ○○さんは、なぜ聞き取りやすいのかな。 | 17 | | <ul style="list-style-type: none"> ○ AEAとHRTで分担して、子供たちのやり取りが見れるように、学級をふたつに分ける。 ○ 相手を大切にしたいやりとりをしているペアに発表してもらい、中間評価を行う。 ◎ 相手を大切にしたいコミュニケーションをより良く図ることができているか。 【話(や)】 |  比較 | | | |
| | | 広げる | 9 振り返り ・学習到達目標に照らして ・自由記述で | | | 5 | | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 互いの成長に気付かせたり、学びの自覚化を図ったりするために、振り返りカードを記入し、発表させる。 ○ 意欲を高めるために、次時の学習について知らせる。 |  振り返り |
| | | | 10 挨拶 | 次もがんばろう。 | | | | | | |

オ 授業研究の記録

| | 成果と課題 | 課題への改善策 |
|-----|---|---|
| 導入 | <p>BADモデルの提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ HRTとAEAによるBADモデルにより問題意識が高まった。 <p>授業の流れの提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業内のメニューが提示されていたので児童が見通しをもって活動できた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回（6年生研究授業）の反省を生かした導入場面を設定できていた。 |
| 展開 | <p>協働的学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童同士がよく交流できていた。 ○ ジェスチャー・リアクションのよさを確認することで以後の活動に生かすことができていた。 ▲ ステレオゲームの人数（16対16）が多かった上、言い方や聞き方などのポイントが示されたら良かった。 ▲ 好きな果物を教えてもらった後の反応の仕方のパターンが乏しい。 <p>中間（相互）評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ インタビュータイムを2回行い、中間評価の場を設定することで、ポイントを意識したやり取りをすることができていた。 ▲ やり取りのポイントとして提示して生かすことができたが、数としては多かったか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ アクティビティの精選。今回はどれも児童の気付きを高めるために効果的であったが、全体→ペアの前にグループや近くの人と交流でといった学習形態にワンクッションがあっても良かった。 ・ 相手の反応を確認できるような手立て、意識の向上が図れるとよい。 ・ 「Me, too.」, 「Wow」「I see.」といったいくつか使える言葉を身に付けておく。 ・ 発達段階に応じた、やり取りにおけるポイントの設定が必要 |
| 終末 | <p>Can-Doリスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲ 自由記述をしっかりと書けない児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自由記述の時間の確保 |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 最後まで高いモチベーションのまま活動を続けられた。 ○ HRTとAEAの連携がとても良い。 ▲ ノンバーバルの部分3年と6年で違いがなかった。 ▲ 複数形をあえて扱わなかった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 言語を使う部分、使わない部分におけるめざす子供像を作成する。 ・ 正しい文法、発音を聞かせることが大事。 |

8 研究の成果と課題

(1) 成果

- ア 研究授業を通して、授業の進め方等についての共通理解を図ったり、授業モデルのイメージを共有したりすることができた。
- イ 研究授業を基に、HES (Hoshinishi English Standard) をまとめることができた。
- ウ 階段に絵カードを掲示したり、授業用ピクチャーカードを購入してもらうなど、学習環境を整備することができた。
- エ 他教科や既習単元の学びを生かした単元構成を意識することができた。
- エ 5・6年の振り返りカードに、学習到達目標を位置付け、学びの自覚化を図ることができた。

(2) 課題

- ア AEAとの役割分担等を工夫する必要がある。
- イ ICTの活用（指導者・学習者）を図る必要がある。令和4年度は、学習者にもデジタル教科書が配付され、活用が求められる。
- ウ 学習環境の充実をさらに図る必要がある。

Hoshinishi English Standard

じゅぎょうづくりにおともに



1 バックワードデザインで指導計画づくり

1 目指す子供像は？

相手意識を持ち、互いの誕生日を連れてやり取りすることができる子供。

2 どんな言語活動でその姿を？

単元最終時のインタビューゲーム。

単元最後

3 そのためにどんなことができるようになっていけばよい？

誕生日を尋ねたり答えたりする英語を話すことができる。

4 その前にどんなことができるようになっていけばよい？

月や日付の英語を話すことができる。

単元最初

2 インプットからアウトプットへ (イメージ)

| | 第1時 | 第2時 | 第3時 | 第4時 |
|----|---|-----|-----|-----|
| 導入 | あいさつ スモールトーク・スキット等 AEA めあて | | | |
| 展開 | チャンツ AEA | | | |
| | 聞く活動 AEA 話す活動 AEA やり取り・発表 AEA 読む・書く活動 (5・6年) | | | |
| 終末 | 振り返り あいさつ | | | |

3 1 単位時間の授業

| | | |
|---|---|----------------|
| 1 挨拶 | どうすればうまく伝えることができるのかな。 | 問題意識の高揚 |
| 2 スモールトーク・スキット 興味を惹く導入 | 今日は、こんな学習をするんだな。 | |
| 3 めあて | | |
| 4 チャンツ 本時で扱う語彙に慣れ親しむ | 先生の英語を真似して話すことができたぞ。まだうまく言えない英語があるな。 | 技能面への自信の醸成 |
| 5 アクティビティ① 聞くことを中心に | 聞いたり話したりできるようになってきたぞ。 | |
| 6 アクティビティ② 話すことを中心に | どうしてうまく伝わらなかったのだろう。 ○○さんは、～なところを工夫しているな。 | コミュニケーションの質的向上 |
| 7 アクティビティ③ やり取り・発表を中心に 読む・書く活動 (5・6年) | ○○さんの真似したらうまく伝わったぞ。 | |
| 8 振り返り | 今日は、～はできなかったけど、～はできたぞ。次も頑張ろう。 | 学びの自覚化 |
| 9 挨拶 | | |

4 問題意識

主体的に学習に取り組む態度の育成



問題意識と見通し

5 相手意識・目的意識

単元を貫く言語活動を設定しよう。

【言語活動】実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う活動

児童が進んでコミュニケーションを図りたいと思うような、興味・関心のある題材や活動を扱う。

決められた表現を使った単なる反復練習のようなやり取りではない。

名前や好きなこと、誕生日を発表しよう。

自分についてスピーチをしよう。

Our Goal

主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成

6 他教科との関連

・・・他の教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。

【学習指導要領解説より】

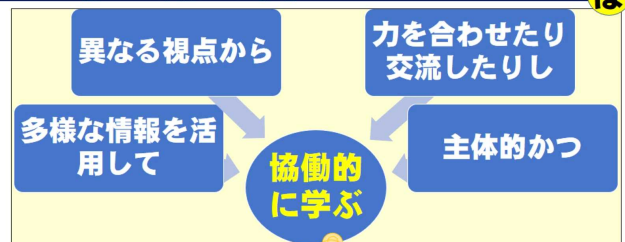
カリキュラムマネジメントの必要性



知的な好奇心 興味・関心

主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成

7 主体的・協働的な学習



【キーワード】

学習集団 情報収集 学習形態
 必要感 習得・活用 振り返り
 学習課題 ゴールイメージ 話し合い

| 主体的な学び | 対話的な学び | 深い学び |
|-------------|----------------|----------------|
| 興味や関心を高める | 互いの考えを比較する | 思考して問い続ける |
| 見通しを持つ | 多様な情報を収集する | 知識・技能を習得する |
| 自分と結び付ける | 思考を表現に置き換える | 知識・技能を活用する |
| 粘り強く取り組む | 多様な手段で説明する | 自分の思いや考えと結び付ける |
| 振り返って次へつなげる | 先哲の考え方を手掛かりとする | 知識や技能を概念化する |
| | 共に考えを創り上げる | 自分の考えを形成する |
| | 協働して課題解決する | 新たなものを創り上げる |

7 主体的・協働的な学習 **ほ**
① 見通しを持つ場

- 興味や関心を高める**
 解決の必要感が持てる課題
 主体的に向き合える課題
- 見通しを持つ**
 学習計画の可視化・共有
- 自分と結び付ける**
 自分ごととしての課題

7 主体的・協働的な学習 **ほ**
② 考えを伝え合う場
③ 資質・能力を活用・発揮する場

- 共に考えを創り上げる**
 互いの考えの練り上げ
 既習知識の活用
- 協働して課題解決する**
 自分の考えを持つ場
 受容的な人間関係

7 主体的・協働的な学習 **ほ**
② 考えを伝え合う「場」
③ 資質・能力を活用・発揮する場

- 互いの考えを比較する**
 構造的な板書
 違いを認め合える学習集団
- 粘り強く取り組む**
 スモールステップでの学習
 認め合う学習集団

7 主体的・協働的な学習 **ほ**
④ 振り返りの場

振り返って次へつなげる
振り返りの場の設定
書くことによる学びの自覚化
振り返りの共有

8 文字と音をつなぐ **ほ**
コミュニケーションへの自信の醸成

音 聞く・話す **絵文字** 読む・書く

絵カードを入れ替えながらチャンツをすることで、気づきを促す。

8 文字と音をつなぐ **ほ**
コミュニケーションへの自信の醸成

音 聞く・話す **絵文字** 読む・書く

助動詞と動詞の関係に気付かせる構造的な板書。

9 中間評価 **ほ**
コミュニケーションの質的向上

取り入れたいところはどこかな？

自分のコミュニケーションの回り方と比べたらどうかな？

コミュニケーション活動

中間評価

コミュニケーション活動

子供の気づきを視覚化

10 自己評価 ほ

達成感・内省力の育成，学習の動機付け

4段階の自己評価 毎時更新可

①自由記述での振り返り

10分 自由記述で振り返りをする。振り返りシートに記入する。

25分 振り返りシートを確認し、内容を共有する。

30分 振り返りシートを確認し、内容を共有する。

35分 振り返りシートを確認し、内容を共有する。

40分 振り返りシートを確認し、内容を共有する。

45分 振り返りシートを確認し、内容を共有する。

50分 振り返りシートを確認し、内容を共有する。

55分 振り返りシートを確認し、内容を共有する。

60分 振り返りシートを確認し、内容を共有する。

65分 振り返りシートを確認し、内容を共有する。

70分 振り返りシートを確認し、内容を共有する。

75分 振り返りシートを確認し、内容を共有する。

80分 振り返りシートを確認し、内容を共有する。

85分 振り返りシートを確認し、内容を共有する。

90分 振り返りシートを確認し、内容を共有する。

95分 振り返りシートを確認し、内容を共有する。

100分 振り返りシートを確認し、内容を共有する。

②学習到達目標での振り返り

10分 学習到達目標を確認し、振り返りシートに記入する。

25分 学習到達目標を確認し、振り返りシートに記入する。

30分 学習到達目標を確認し、振り返りシートに記入する。

35分 学習到達目標を確認し、振り返りシートに記入する。

40分 学習到達目標を確認し、振り返りシートに記入する。

45分 学習到達目標を確認し、振り返りシートに記入する。

50分 学習到達目標を確認し、振り返りシートに記入する。

55分 学習到達目標を確認し、振り返りシートに記入する。

60分 学習到達目標を確認し、振り返りシートに記入する。

65分 学習到達目標を確認し、振り返りシートに記入する。

70分 学習到達目標を確認し、振り返りシートに記入する。

75分 学習到達目標を確認し、振り返りシートに記入する。

80分 学習到達目標を確認し、振り返りシートに記入する。

85分 学習到達目標を確認し、振り返りシートに記入する。

90分 学習到達目標を確認し、振り返りシートに記入する。

95分 学習到達目標を確認し、振り返りシートに記入する。

100分 学習到達目標を確認し、振り返りシートに記入する。

今日は、〇〇はできたけど、次時は難しかったから、次時で頑張ろう。

11 パフォーマンス評価 ほ

指導と評価の一体化，技能面へ自信の醸成

個別に「発表」「やり取り」の見取り

単元で扱う4文程度の基本本文を話す。

教師が英語で質問し、質問に合わせて回答する。



知的・情的KR フィードバック

- ・上手に発音できているよ。
- ・ここは、こう発音するといいね。



- ・自分の課題が、具体的に分かる。
- ・自信が持てる。



- ・B・C評価の子供に個別指導ができる。
- ・授業で足りない部分が、子供の姿から見え、次時の教材研究に生かせる。

12 クラスルームイングリッシュ ん

| | | | |
|----------------|----------------------------|-----------------|------------------------|
| 1 おはよう編 | Good morning. | 4 昇降指示編 | It's your turn. |
| こんにちは。 | Hello. | やってくれる人? | Any volunteers? |
| 元気ですか? | How are you? | 1番目にする人は誰? | Who's first? |
| → 元気です。 | I'm fine (good). | 次は誰? | Who's next? |
| どうぞ。(何かを手渡す時) | Here you are. | 誰か、他に? | Anyone? |
| ありがとうございます。 | Thank you. | 向かい合って。 | Face each other. |
| どういたしまして。 | You're welcome. | カードを裏返して。 | I turn over the cards. |
| さよなら。 | Good bye. | カードを(バラバラに)切って。 | Shuffle. |
| | | 何だろう? | Guess what. |
| | | 〇〇の勝ちだよ。 | The winner is OO. |
| | | 引き分けだよ。 | It was a tie. |
| 2 授業の始まり・終わりの編 | Today's leader, come here. | 5 とっさの一瞥編 | |
| 始めましょう。 | Let's start. | ええ。 | Well, let me see. |
| 終わりをしましょう。 | Let's begin. | 英語で言って。 | In English, please. |
| | That's all for today. | あしい。 | Close. |
| | | もう一度やって。 | Try again. |
| | | 気にしないで。 | Don't worry. |
| 3 基本指示編 | Stand up. | 6 褒め言葉編 | |
| 座りなさい。 | Sit down. | いいよ。 | Good. |
| 手を挙げてなさい。 | Raise your hands. | すごいね。 | Great. |
| 2人組を作りなさい。 | Make pairs. | 素晴らしいね。 | Wonderful. |
| 3人組を作りなさい。 | Make groups of three. | 素晴らしいね。 | Excellent. |
| 2つのチームに分かれなさい。 | Make two teams. | よくやったね。 | Good job. |
| 円を作りなさい。 | Make a circle. | やったね。 | You did it. |
| 一列に並びなさい。 | Make a line. | かんたんだよ。 | Perfect. |
| 自分の席に戻りなさい。 | Go back to your seat. | 簡単だよ。 | Perfect. |
| よく聞きなさい。 | Listen carefully. | 簡単だよ。 | Perfect. |
| 準備はいいですか? | Are you ready? | 簡単だよ。 | Perfect. |
| 開始します。 | Start / Stop. | 簡単だよ。 | Perfect. |

気負わず、できることから少しずつ!

10 令和4年度の校内研修について

テーマ研修については、2か年にわたって「外国語活動・外国語科」についての研究に取り組んできた。学級担任が進める授業づくりを中心に研究授業を計4本提供していただき、授業の進め方について全員で研修を深めることができた。また、2年目は学習環境の整備にも取り組んで英語の日常化を図った。さらに、他教科等との関連を図ってカリキュラムマネジメントを行うなど、授業づくりの充実にもつながった。

一般研修については、当初の計画から変更させていただいたものもあったが、概ね実施することができた。来年度も先生方のニーズに合った研修ができるようにしたい。来年度の研修についてのアンケート結果は次の通りである。

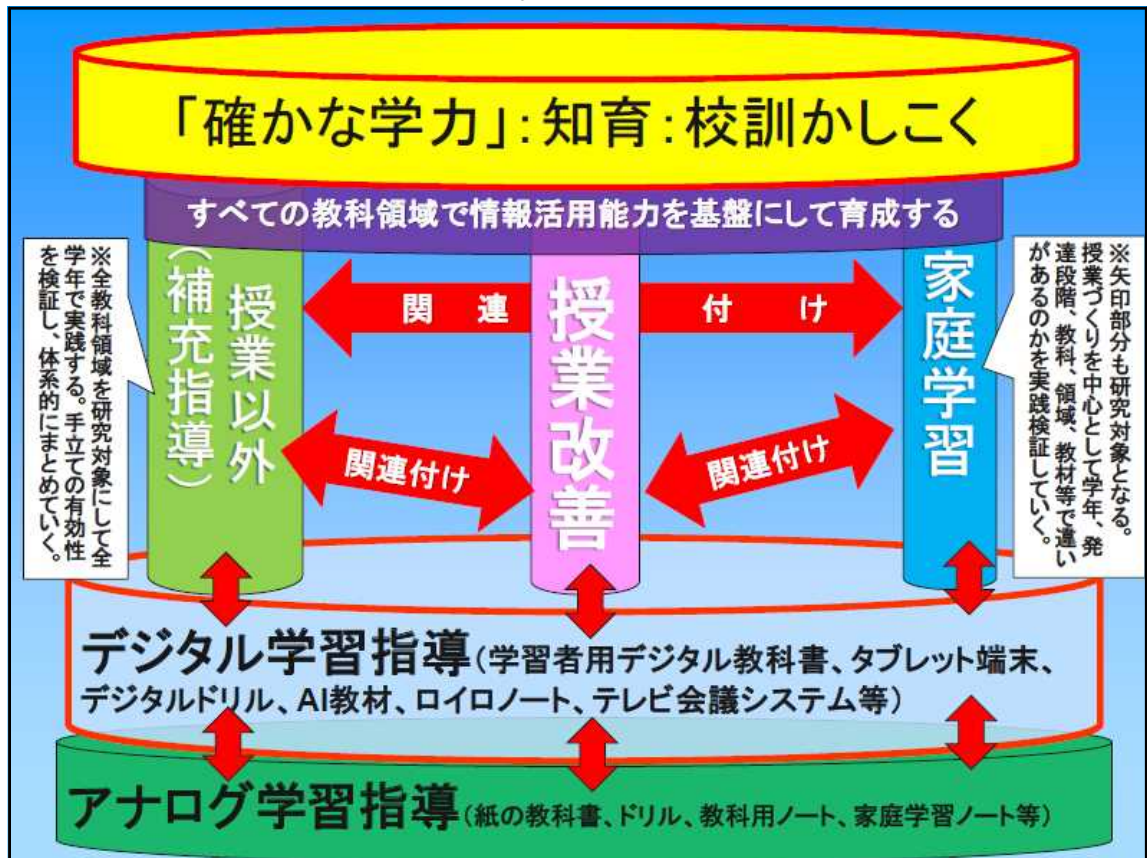
(1) テーマ研修

- 校長先生の指針である学力向上
- 学力向上に力を入れるという学校長のお考えが強いので、それをテーマ研修にすればよいと思います。
- 社会科
- クラスルームイングリッシュ，発音練習
- 道徳
- 主体的・対話的で深い学びと学習環境について
- ICTの活用の在り方
- 外国語を継続して行うのが良いと思います。
- 外国語，外国語活動をさらに継続してもよいのかなと思います。
- 学力向上ということもあり，国算の教師で思考力・判断力・表現力を養うにはなどという内容にしてもよいのかなと思います。

(2) 一般研修

- プログラミング教育
- 人権同和教育
- 児童理解に関するもの
- 絵の描かせ方，指導法
- 工作の指導法
- 社会科の地域素材開発（例）伝統芸能としての棒踊り
- 体育科の教材研究（実際に運動を体験しながら）
- 本年度同様
- 今年度行ったものをもう少し充実させてみてはいかがでしょうか。オンラインの前にタブレットの扱いの研修だとか。生徒指導，現状把握でどのような指導をすればよいかとか。具体的事例を挙げ，実践的な研修は難しいでしょうか。
- 図工（絵画指導）研修
- 保護者対応の研修
- ICT タブレットを活用した学習方法
- 社会（授業の進め方，工夫等）
- ICT
- 水難時の救助方法（着衣水泳時などでも還元できるのでは）
- 絵画指導
- ロイロノート，プログラミング教育など，また研修で学ぶ機会があると教師側の不安が軽減されるのではないかと思います。

以上の結果に加え，令和4年度学校経営方針の柱が「学力向上」「教育の情報化」「働き方改革」であること，「外国語」において，学習者にデジタル教科書（紙媒体教科書も）が配付され，子供の活用能力に加え，教師の指導力向上も急務であること，ICTやデジタルドリルの活用によって働き方改革につながることを総合して考えると，テーマ研修は，教科を問わず，「ICTを生かした学習指導の充実を目指して」（仮）としてはどうだろうか。また，一般研修については，教育活動との有機的な関連を図り，実践的な研修にしていくことが望ましいと考える。



11 令和4年度 研修計画（案）

| 月 | 日 | 曜 | 内容 | 時間 | 担当 |
|----|----|---|--------------------------|----|--------|
| 4 | 18 | 月 | 本年度の研修について | 25 | 研修 |
| | | | 特別支援教育 | 25 | 特別支援教育 |
| | | | 生徒指導（共通理解） | 25 | 生徒指導主任 |
| 5 | 9 | 月 | 絵画指導（県図画） | 45 | 図工主任 |
| | 23 | 月 | 救急救命講習 | 45 | 保健主任 |
| | 30 | 月 | I C T（テーマ研修・研究授業のポイント説明） | 45 | 教育方法 |
| 6 | 20 | 月 | 研究授業・授業研究 | 60 | 研修 |
| | 27 | 月 | 俳句指導（俳句週間・青の俳句・おーいお茶） | 45 | 国語主任 |
| 7 | 21 | 木 | 人権同和教育① | 45 | 人権同和教育 |
| | | | サービス規律事例 | 45 | 管理職 |
| | | | 児童理解【保健面等】 | 45 | 保健主任 |
| | | | 生徒指導（講師招聘） | 45 | 生徒指導主任 |
| | | | I C T（テーマ研修） | 45 | 教育方法 |
| 8 | 1 | 月 | I C T（テーマ研修） | 45 | 教育方法 |
| 8 | 22 | 月 | 道徳教育（講師招聘） | 45 | 道徳主任 |
| | | | 各種検査分析 | 45 | 教育方法 |
| | | | 作文指導 | 45 | 国語主任 |
| | | | 絵画指導（読書感想画） | 45 | 図工主任 |
| | | | 棒踊り | 30 | 体育主任 |
| | | | I C T（テーマ研修） | 45 | 教育方法 |
| 9 | 26 | 月 | I C T（テーマ研修・研究授業のポイント説明） | 45 | 教育方法 |
| 10 | 17 | 月 | 研究授業・授業研究 | 60 | 研修 |
| | 24 | 月 | 人権同和教育② | 45 | 人権同和教育 |
| | 31 | 月 | I C T（テーマ研修） | 45 | 教育方法 |
| 11 | 21 | 月 | 人権同和教育③（人権週間に向けた教材研究） | 45 | 人権同和教育 |
| | 28 | 月 | 教育課程（グランドデザイン・計画） | 45 | 教務主任 |
| 12 | 26 | 月 | 教育課程（検討） | 45 | 教務主任 |
| 1 | 30 | 月 | 教育課程（検討） | 45 | 教務主任 |
| 2 | 13 | 月 | 教育課程（入力） | 45 | 教務主任 |
| | 20 | 月 | 研修のまとめと来年度の研修について | 45 | 研修 |